

第3回上田市総合教育会議(平成27年12月10日)議事録

1 開会

2 母袋市長あいさつ

皆さんお疲れ様でございます。師走も半ばに入ってくるころでございますが、現在、まだ12月定例会市議会の開会中でございます。今議会におきましても教育に関わる質問がかなりございました。中でもこの総合教育会議に関連する質問をいくつかいただいたところでございます。それだけ関心とか期待の高まりを感じておりますが、我々としては実を挙げていくと、残していかなければならないという思いを強くいたしました。

本日ですが、今、話のあった会議事項ということで3点お願いしますけれども、新たに策定いたします教育大綱、また改訂いたす教育支援プラン、これらにつきましては来年度からスタートしていくものでございます。このため、この本日の協議を踏まえながら、今後学校現場あるいは市民意見、こういう形も開く中で次回の会議でまとめていきたいという予定でございます。一方で学校給食の運営方針でございます。本日においては、大きなところの方針、これの確認を致したうえで今後においては必要な調整とか、あるいは手続き等に着手してまいりたいと、このように考えているところでございます。いずれも当市の教育の根本的な方針を示す大変重要な内容と認識をしております。どうぞ率直な意見を交わしていただきまして、皆様と思いを共有しながらより良い上田市教育の前進を図ってまいりたいと思っておりますのでよろしく願いして私からの挨拶といたします。

3 小林教育長あいさつ

本日は第3回目の総合教育会議ということで様々なテーマがございますので、御意見を伺わせていただければと思うところでございます。今市長のほうからもお話がございましたけれども、学校給食の運営方針につきましては、ここにいらっしゃる教育委員の皆様も含めて視察をさせていただくなど、鋭意、検討を重ねてまいった重要なテーマ、このように認識しているところでございますが、本日の会議の中で調整いただければ非常にありがたいと思うところでございます。教育支援プランにつきましても市長のお話の中にございましたように、学校現場というものの意見なども教育委員会としてこれから聞いてまいりたいと思っているところでございます。今年度よりこの会議がございますことで教育委員会の議論そのものもかなり活発化してきていると感じているところでございます。教育委員の皆様にも様々な観点から思いを述べていただければと思うところでございます。よろしく願いいたします。

4 会議事項

(1) 上田市教育大綱の策定について

翠川政策企画課長 資料1、資料1-1説明
金子政策企画部長

初めて大綱の案として綴じたものを御提示しました。中身について、これからご議論を賜りたいと思いますが、最初に、皆さん方に事務局として案を示してない、この大綱案の最初の表紙にもあります ひとつくり、それと3ページの基本理念にあります ひとつくり、これは同じ文言を入れる予定ですけれど、この部分について資料1でご説明いたしました前回のご議論も踏まえて事務局として5つの案を示させていただいてございます。まずこの大きな理念、教育としてどういう人づくりを目指すのかということをご議論をいただいて、それから個々の内容に入らせていただければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。それでは委員の皆さんの御意見お願いしたいと思います。

今お伺いしたところ、教育委員会で少しご議論をいただいているそうですので教育委員の方、寺島委員さん、その辺の内容をお伝えいただければありがたいのですが。

寺島教育委員

私の意見としましては、基本理念ですので、ある程度普遍性が欲しいということと、それからできるだけシンプルな形がいいと思います。一つは総合計画、10か年計画がありますけど基本的には教育の理念はリンクするけれども、それが変更になってもそんなに変わるものではないと考えますので、できるだけシンプルで余計な言葉は無くてもいいという中で、この中では、1ないし2の案が私としては好ましいと思います。

金子部長政策企画部長

今の期間の問題、この教育大綱は5年間で第2次上田市総合計画の前期まちづくり計画に合わせてあるのですが、その部分はどうですかね。

寺島教育委員

その部分は10年経ったときに、できれば理念ですので変わらなくてもいいのではないかと思います。ただ、環境が変わってきますので、絶対に変わる必要が無いということではなくて、基本的に理念というのは歴史に耐えるものだと考えていますので、10年経ったところで同じような形で理念は続いて構わないと私は思います。

城下教育委員

私の意見としましては、今、寺島委員さんがおっしゃったことと違うところを私の中で思っております。確かに理念ですので普遍的でゆるぎのないものとは思いますが、上田市としては、こんな人づくりをしたいという具体的で明確なメッセージが必要じゃないかなという気持ちが自分の心の中で揺らいでいますが、その方が今パーセンテージは高いです。上田市の大綱なので、一番の土台には上田市を愛するという気持ちがあって、子どもたちに焦点をあてれば、子どもたちが大きくなって、ゆくゆく上田へ戻ってきて上田で働いてよね。ということではなく、義務教育を上田市で受けたその時期の学力とかそういったものだけではない、上田市で育った、上田市で培ったものを子どもたちが大きくなるにつれて、そこを潜在的でもなんでもいいのですが、土台に、心の底に置き続けてもらいたいという希望があります。

理念というものの自体、何かあったときに振り返るもの、これで良かったのか、ちょっと立ち止まった時、原点を見つめたとき、耳触りのいい優しい言葉を並べておいても、何ら今までと変わらないという気持ちがあります。これからの未来を生きてく人にはたくましさというもの、知識ばかりが豊富ではなく、そういったものを身につけて大きくなってもらいたい。そういうたくま

しさに関しては、子どもだけでなく、現在大人である人も未来をつくるために学び続けるというたくましさも必要ですし、大人たちが学び続けなければと思って頑張ってたくましくやっている後ろ姿を子どもたちが見るといこともとても大事だと思います。それともう一つ翻って私たち今教育行政をどうしよう、支援プランをどうしよう、大綱をどうしようと、教育行政を推進する私たちに翻って見ても、そこでもたくましく前向きに行政を進めていく義務と責任があるという気概、そういうものも込めて、すごく欲張りな理念になってしまうかもしれませんが、そこも感じられる、発信する私たちがいて、受け取った市民の皆さんが、ああそうか、こういう人づくりを目指すのかというメッセージが伝わるような、もう少し明確なメッセージが必要じゃないかという考えがあります。当然理念ですので普遍的でシンプルでゆるぎのないことは大前提にありますが、上田らしさをグッと出すのも、これからの方法の一つという感じです。

山崎教育委員

大綱の案を見させていただいたときに、 に入るのは、どんな人が見ても非常に分かりやすい、メッセージが伝わりやすい、そういう言葉がいいと思いました。上田市の人づくりはここを目指してやっていくということが、市民の皆さんが見てすぐ分かるという事が大事なかなと思いました。5点出させていただいた案の中で、本当は「心豊かな人づくり」が自分の中ではフレーズ的にも文言としても当てはまりますが、なかなかそれだけでは思いが表しきれないかなと思ったので、私の一つの案として、「豊かな心で未来を切り拓いていく人づくり」、こんなように理念が出来ればいいかなと考えてきました。

北沢教育委員

以前どういう人間をつくっていくかということは、それは日本全国そんなに変わらないというお話はしたかと思います。知徳体がその子なりにバランスがとれて、社会的に自立した人間、ここを目指していくということは変わりないと思います。その中で一番私が大事にしているのは、城下委員さんおっしゃっていらっしゃいましたが、困難な状況にあったときにどうやって乗り越えていけるか、乗り越えていく力が大事なかなと常々思っていました。

ただ上田市としてとなると少し弱いかなと、大綱ですので条件をいくつか考えてみました。

一つ目の条件というのは、私は市長さんが書いてある、ここに書いてある思いを大事にしなきゃいけない、そのように思います。ここに書いてある一文字一文字というのは誰が読んでも反対する人はいないと思います。賛同していただけたらと思っています。

この中で一番多い言葉は将来と未来です。将来が2回、未来が1回。それだけ思いがここに出ていると思います、言葉自体に。2つ目はやはり大綱ですので、寺島委員さんがおっしゃたように私は普遍的でいいし、10年どころか20年、30年、もっと言えば上田市がある限り私は耐えていけるものでいいと思います。ですので、ある面ここは城下委員さんとは、私は逆ですけど抽象的でいいと思います。具体的なものはその下にくるべきだと思う。これが二つ目です。三つ目は上田市の大綱ですから、長野市も今つくっています。だから上田市らしい誰が読んでも上田市と分かる大綱、真似しない、真似されない、そういうものが私はいいかなと思います。四つ目は山崎委員さんもおっしゃっていらっしゃいましたが分かりやすい、分かりやすいという言葉は覚えやすい、覚えやすい分かりやすいところで短いほうがいいと思います。短くて覚えやすいとなれば短詩形がいいと思います。俳句とか川柳とか和歌とか、5文字7文字の組み合わせが私はいいかなと思っています。5つ目は、私は教育に関するフレーズですので明るい展望が持てるもの、凜とした清新なイメージ。このように考えましたが、これに当ては

まるものがないかなと思っています。案を5つ見させていただき、今の条件を考えていくと人づくりというものは5文字で、これはある程度前後の資料から見ると、まちづくり、人づくり、地域づくりとあるので、人づくりは固定して考えると、上田らしいという上田という文言を入れなければいけないし、ここに1~5までの間に未来という言葉は3つ入っていますけど、未来という言葉は入れたいなと、上田と未来と人づくり、この言葉を入れて私は大綱をつくってあげればと思っています。

小林教育長

教育委員会で議論したのですが、ここに挙げられている資料1-1の言葉はどれも素晴らしい言葉だと、このように思っています。言葉の一つ一つを実現しようとして私たち考えてきて大綱を作る、その大綱の台として何がふさわしいのかと考えたときに、ここにある言葉はどれを取り上げても、どれも説得力があると思っていますけど、今委員さんたちがおっしゃっていた事を受けまして、一つにまとめていくとしますと私の個人的な思いからすると、心の面は一つ入れておいていただけたらなと思っていますところなんです。今あったような未来であるとか、切り拓いていく力であるとか、ふるさと上田というものと併せて心の面を一つ入れていただければありがたいと思います。そうしますとかなり長くなるとは思いますが。

母袋市長

難しいね。ますます分からなくなってきた。ただ私自身は、「はじめに」にも書いてある、これもあまりにも書きすぎている感もあるけれど、もろもろの視点があって立ち位置によって主観的要素が入ってくるから、非常に難しい表現、作りにくい。事務局でも頭を悩ますとこだと思うので同情しているのだけど。私自身が好きな言葉として、やはり政治の立場でいくと、未来をどうするのかということ。過去には反省はあっても展望やら夢はありえないので、そういう意味で好きな言葉として未来とか将来ですよね、子どもを中心ということになると、大人に夢は無くてはいいよとは言わないけど、子どもにはやっぱり次なる成長していく段階、未来があるわけですよね。その言葉は是非、私としては書き込んでもらいたいというのが一つと、もう一つは多様性な人という中で、やはり自立ですよね。自立していけるような人、これはやっぱり目指していくべきではないかなというのと、さっき上田って言葉がありましたので、よく信州人という言葉を使いますが、「上田人」、上田人という言葉がいいのかその辺ですよね、今のキーワード的には未来、自立、上田人、その辺を入れられたらなというのが私の思いです。

金子政策企画部長

ありがとうございます。それぞれの委員さんの御意見、一致するところもあるかと思いますが、異なっている点も多いということで、どうやって進めていくか司会のほうも今困っておりますが、ここでお示しをした資料1の案の5個あるうちの1、2というのは、どこの市町村でも取り入れることが出来る案でございます。上田らしいことを入れるとしたら、今市長がおっしゃった「上田人」もしくは、「ふるさと上田」という文言を入れ込んで上田しか使えないよということでまとめていただければ、上田の特色が入るかなと思っていますので、その辺の御意見を賜って少しずつ、次回は3月ですので、その前に市民の皆さんの御意見を聞くためには、ある程度案を出していかないと意見を聞けませんので、その辺、皆さんの御意見を賜われればと思いますがいかがでしょうか。上田らしいということ、できれば事務局としても、ここに位置

づけたいと思っております。

北沢教育委員

短く考えると、例えば5・7・5みたいな感じで行くと、夢希望、持てる上田の人づくり、こういう感じになりますが、もう少し上田らしくて、しかもある程度さっき私が言ったある程度の条件をと考えて一つ考えてきました。メモしていただければと思いますが、上田ですので、最初は「蚕都」、蚕の都、蚕都で中点、蚕都の上にはカタカナでサントとふりがなをふる、産都で中点、そして産都・上田の未来を、拓とか築とか、よくあるものではなくて、やっぱり上田ですので、ここは紡ぐ、「蚕都上田の未来を紡ぐ人づくり」、そうすると蚕と紡ぐは連動すると、上田市と入れなくても蚕都の「都」があるのでここも連動してくると、紡ぐは本来の意味は繭から糸を紡ぎ出すことですから、非常に細いものから太いものへ、又は言葉と言葉を紡ぐとか、人と人とを紡ぐとか、いろんな意味に比喩的に使われますので、やはり今と未来を紡ぐとか、人と人を紡ぐとか、また紡ぐというのは繭から糸を作るという意味もあるので、紡ぐは人づくりの紡ぐにも連動してくる。自分としては「蚕都上田の未来を紡ぐ人づくり」がいいか、助詞のところを「上田と」にするとまた意味合いが違ってきますが、「蚕都上田の未来」と言うと、市長さんが書いておられるように、将来は上田で活躍してもらいたいという意味は、「上田の」の方が映えるかなと思っています。また「上田と未来を」のように、「と」にすると、またもっと違う意味になってきますが、一つの案として。

金子政策企画部長

今、北沢委員さんから一つ、また別の案をご提示いただきましたけど、この点について他の委員さんどうですか。

寺島教育委員

良い案を出されたと思います。さっき北沢さんが言ったときには、5・7・5と言われたので簡単に5・7・5でまとめるとすれば、この中から、上田を愛し未来をひらく人づくりというような案で、そこへ何かを付け加えるのかどうかというようには思いますけど、幾らいろんな言葉使って語ってみてもしょうがないので、できるだけシンプルがいいと思います。ただ上田については漢字ではなくて平仮名のほうが優しいのかなと、あるいは子どもたちにも分かりやすいし、漢字よりも柔らかさを出すには上田というのは平仮名を使ったほうがいいのかと個人的には思っています。

城下教育委員

私も先ほど最初お話したときに5つの案からどれがいいということで、最後の方でお話差し上げたほうがよかったかなと思ったのですが、最初の自分だけの考えでいけば、やはり「たくましく」というところも入れてほしいし、もっとストレートにインパクトのあるほうが、メッセージ性もあるほうがと思って、案の5番とかが一番いいのかなというような気はしていましたが、やはり北沢委員さんの話を聞いたときに、逆にストレートすぎないで、聞いた側、受けた側が、夢が膨らむ、自分の中で希望が膨らむというか、そんな感じのこういうつくり方もあるのかと思って、自分の胸の中に落ちてはいるところですけど、先ほどお話差し上げたように「たくましく切り拓く」というこのフレーズも、私はとても捨てるように思いますけど、こういうものは、それぞれ人の好みにもよりますので、そこは先ほど北沢委員も言われたように、市長さんの思い、「はじ

めに」というところからおりてきたところでの、この理念という形で作りこむのが一番いいとは思いますが、言葉遊びのようになってもいいかもしれませんが、なかなか今北沢委員さんがおっしゃったことも素敵な夢が膨らむ文言だなと今、感心していたところです。

山崎教育委員

この大綱のところ、カッコの中に黒丸があって、その一段下にも小さい黒丸がありますよね、これは何か意味がありますか。

金子政策企画部長

上のほうの黒丸は今言った理念を入れて、必要があったら下にキャッチフレーズ的なものを入れるというイメージ、これが要らなければそのままにします。第二次総合計画でもキャッチフレーズということで、わかりやすくしたものをつけてありますから、そのイメージをしているということです。

山崎教育委員

先ほども言ったように私はほんとに誰が見てもわかりやすい、上田市はこういう人づくりを大事にするというところが、まずわかればいいと思いますので、この上田を表すための言葉は沢山あるし、人それぞれ感じ方が違うと思いますが、自分の中で「心豊か」というのが響いている言葉なので、そのあたりも入れていただければいいと思っています。

小林教育長

また、混乱させるようなことを申し上げていけないのですが、先ほど市長が言われた「上田人」というのもいいかと。人づくりと言わなくても、上田人と言うだけで上田の人づくりっていう感覚が出るのか出ないのか。最後に上田人とすれば、かなりほかの言葉が入るのかも思います。

北沢教育委員

個人的には、「人づくり」より、なんとかの育成とかそういうことの方が良いかなと思いましたが、この資料全体を通して地域づくりということもあって人づくりということで、そういうことでこの資料が作成されていて、その流れがあると思うので、そうすると人づくりというのは、はずせないかなと思っております。もしそれが上田人となれば、またそれなりに作ればいいのかと思います。今回人づくりということと、未来ということと、上田ということは条件的に、外せないと自分で思ってきました。あと上田らしいということを入れると、さっきの紡ぐというのは上田紬にも十分通じます。さっき言わなかったですけど、そういう意味でいくと、案はかなりのものを入れ込んだつもりで考えてはきましたけども、どっちかっていうと明るい展望の持てる、そういうフレーズがよくて、これ七文字七文字五文字なんですね、7・7・5で精選して作ってみましたけども、やはり誰もが覚えて誰もが言いやすい、しかもいろんな事をこの文章から想像できて、それなりに上田で明るいものが感じられる、上田の教育には明るいものが感じられる、しかも上田と日本とか、上田と世界とか、そういうものにも繋がっていく未来という言葉があれば、紡ぐという言葉があれば、そういう風に個人的に思って作ってみましたけども、他のまちでは絶対紡ぐという言葉は入れられない、築くとか拓くとかそういう言葉は入れられるけれども、未来を紡ぐという言葉は、上田でしか入れられないなど。とてもこれ綺麗な言葉ですよ、

非常に美しい言葉ですよ。

寺島教育委員

北沢委員の未来を紡ぐというのは賛成です。ただし、あえて蚕都というのは入れる必要はないとちょっと思いました。紡ぐ中に蚕都が入っている、ある意味では上田の代名詞ですけど蚕都はどうしても過去になっちゃうので、蚕都上田は過去の話なのでちょっとイメージが。未来を紡ぐ中に蚕都は入っているのだから蚕都を入れなくてもすんなりいくし、あるいは蚕都の代わりに違う言葉を入れて未来を紡ぐでもいいのかなと思いました。

北沢教育委員

私は蚕都の蚕という言葉には、賛成の賛もあるし太陽のSUNもあるし、「燦々と」という燦もあるし、いろんな意味で入れられれば。だからさっきあえてカタカナをふったのですが。

そこまで読み取る人はいないと思いますけど、蚕都という言葉は古いイメージかもしれませんが、上田にしかない、誰が作ったか知りませんが、私はとても好きな言葉で上田というものを表しているかなと思います。

寺島教育委員

紡ぐという言葉という中に、蚕都いうことをイメージして解釈してもらえれば充分かなと思います。入ったからいけないということではなくて。

母袋市長

具体的に出てきたので私はやっぱり今、この「未来を紡ぐ」というのは上田らしさの象徴が出ていますので賛成ですね。紡ぐというのはいろいろな場面で市政においても言葉としては使ってきましたし、細い太い、人と人をとか、いろいろ出ましたが、とりわけ私の思いは、縦横という縦系、横系、これはいろいろな意を含めることが出来るので、縦横紡ぐというのは、多様性の意味からも斜め系あったっていいので紡ぐに繋がるだろうし、そういう意味からすると私も好きな言葉です。今、蚕都という話、歴史的とか産業的に見ると過去の話と捉える一方で、繊維学部が残って今頑張っているとか、これからシルクロード的な動きも富岡が発信しながら県内でもそんな動きが出ているという中で考えると、決して過去だけのイメージではない、どちらかという確かに過去のイメージが強いけど、これが未来系に展開できれば、イメージが出来れば、この言葉も良いのかなという思いを持ちました。サントミュージゼのサンも三つ四つの意味合いを込めてサントミュージゼになっているということもありますので、そのへんの兼ね合いからすると両論ありますよね。確かに。もう少し私も考えてみたいなと、こんな考えを持ちますが、上田人というのは深い意味は無くして信州人から単に持ってきたので、私はそんなにこだわる言葉ではございません。

金子政策企画部長

今、皆様のご議論の中で、紡ぐという表現を北沢先生がおっしゃいましたが、上田市の都市宣言の中に、魅力と出会いが紡ぐおもてなしの都市宣言、という表現を使ってすでに都市宣言しております。

ですから上田らしいという言葉の一つとして使っておりますので、そういう事も御参考になさっていただけるかもしれません。それともう一つ、司会が物を申して申し訳ないのですが、

この一番の基本理念は、細かなことを言っていけば、それぞれの皆さんの委員さんの思いがありますので、入れたい思いというのは、例えばその下の各分野の目標の中に、例えば心豊かという表現が必要でしたら、その中に入れ込むというようにしていただければまとめることができるのかなと私は思っていますので、その点を踏まえて、今北沢委員さんがご提示いただいた案、皆さんいかがですかね。蚕都という表現入れるか入れないかということが、また大きな問題だと思えますけど。

山崎教育委員

蚕都というのと上田というのはイコールにならないのですかね。蚕都上田というのはワンフレーズなのですかね。

金子政策企画部長

他にも蚕都ということで栄えた都市ございますので。

小林教育長

先ほど部長が言われたもので言いますと、「子どもたちの将来の礎となる生きる力を育みます」のところの生きる力のところに、「豊かな心」というのは、きっと入ってくるのではないかなと。ここに入れても問題はないかなと。だから心はここでいいのかなと。そうすると後は、最初の5文字のところへ上田というようなニュアンスを匂わせるかだけ。そこのところが一番のポイントのような気がしますけれど、寺島さんは後のほうの「紡ぐ」のほうで上田の特徴は出ているので、もう一つ新しい概念を加えた方がいいという案のように思いますが、その辺が難しいところですね。そこだけだと思いますが。

城下教育委員

先ほど北沢委員もおっしゃいましたが、「蚕都上田の」と「蚕都上田と」だと、変わってきます。そこも気をつけて協議した上での使い方をしたほうがいいと思います。

母袋市長

例えば「と」となると誰かと誰かですよね。一緒に築くということでしょう？ そうすると蚕都上田というのは単なる名称、人でもないよね。だから私と蚕都上田と未来を紡ぐという言葉だよ、違うのかな？ だからそれおかしくないかなということ。私と蚕都上田と未来を紡ぐというのはおかしい。蚕都上田と未来を紡ぐというのは、誰かと誰かで紡いでいこうという意味合いだと思うけど、どうなのかな。

北沢教育委員

文法的には「と」はおかしいです。意味合い的には、自分で言いましたけども。だから最初に「上田の」というように言いましたけども。ただ「上田と」とすると文法的にはややおかしいですけど、意味合い的にはかなり広がると私も思っています。「上田の」というとローカルに上田のことと限定されますけども、「と」とすると、間口が広がって色々考えられると思います。

寺島教育委員

「と」という表現もおっしゃる通りだと思います。でも上田と未来を紡ぐとなると市長もおっし

やったように並びだから、名詞どうしの並びだから、ちょっと違う次元を主張しているイメージがあります。言葉とすれば、「の」ほうがわかりやすく、市民の皆さんも違和感が無く入ると思いますが、「と」となるとそこに何だということで、「の」のほうが狭いですけど「上田の」ということでいいのかなと思います。

小林教育長

私も「の」のほうに賛成です。

北沢教育委員

もう一つ提案とすれば、蚕都は漢字をやめて、最初からカタカナだけで入れれば、これはまたイメージは違ってくると思います。

城下教育委員

サントミュージーゼで、カタカナのサントにも皆さんの知識も広がっているとは思いますが。

母袋市長

今もってまだ三つの意味があるとか、四つの意味を踏まえているとか説明はしているけど、時々聞かれるから。これは命名者が言った言葉を、そのまま拝借して私は言っていますが。

寺島教育委員

それを配信するにはカタカナのサントもあり得ますね。意味は注釈つくけど、こういう意味だよと、三つあるよと、四つあってそういう上田だよと。漢字を使っちゃうと蚕って固定しちゃう。上田は蚕で有名だけでも蚕しかないというか。

金子政策企画部長

皆さんの意見いただいて、例えば3ページの人づくりの下の　　は、私、キャッチフレーズと言いましたけど、今の蚕都という意味、何があるのという、例えば三つ、四つ、ここで、蚕都の意味を位置付けて、平仮名で「さんと」上田と表現していけばどうでしょうか。ある程度、説明を加えなければ、わからないかもしれませんで。漢字だとすっきりしますが、それだと寺島委員さんのおっしゃった過去のものという事になるかもしれないから、いろんな意味を含めた「さんと」だよという事を、この部分で表現させて頂いて、北沢委員さんがおっしゃっていただいたことを第1案として、これでいこうかなというご意見でまとめたいと思いますが、皆さんいかがでしょうか。

山崎教育委員

一点だけ良いですか？蚕都をカタカナ、平仮名？例えばカタカナにするとイメージ的にサントミュージーゼの事になってしまう気がします。だから部長がおっしゃったみたいにきちんと整理をしていただければ良いと思いますが、サントミュージーゼがどうしても頭にきてしまうような、ちょっとそんな気がしてしまいますが。

金子政策企画部長

山崎委員とすれば平仮名のほうが良いということですか。

母袋市長

これ、平仮名も違うような気がする。

山崎教育委員

「蚕都上田」の上田のほうはどう。

金子政策企画部長

上田は、まだご議論の途中ですけども、寺島委員さんは平仮名だとおっしゃった。

北沢教育委員

私は、蚕都はカタカナ、上田は漢字が良いと思います。

山崎教育委員

私は、蚕都をカタカナ、上田は平仮名で書き綴っていたのですが。

母袋市長

確かに最近はサントミュージアムだから皆そっちへイメージがいくかも分からないけど、カタカナで表すことは多分どうということだと思う人がいる、この意味はなんだと。こう思ったらしめたものだ。この中にいくつかの意味合いが補足的に出てというイメージに繋がるかどうか。一般の人が見て。

山崎教育委員

注釈がきちんと映えて理解していただければカタカナでも良いと思いますが、私どうしてもサントミュージアムの頭にきてきまって、私たちは上田にいるからいいですけど真田とか武石にいる人たちが見たときにどんな風に思うかなと思ったので、漢字がいいのか私も決めかねますが。

寺島教育委員

蚕都という字で漢字を使うと漢字、漢字で硬くなるので、漢字で蚕都を使うとすれば上田は平仮名のほうが柔らかいのかなと、あるいは蚕都を使わない時に上田を紡ぐという表現をしたときも平仮名のほうが優しいのかなと。カタカナの蚕都が出てくれば或いは平仮名の蚕都が出てくれば、上田は漢字のほうがいいのかなという風に思います、並びとすれば。

金子政策企画部長

大体、ご議論をいただいで、意見も出尽くしたと思いますが、それでは蚕都はカタカナ、上田は漢字で「サント上田の未来を紡ぐ人づくり」という方向で、この場をまとめさせていただいて、「サント」の意味を北沢委員さんも含めてお教えをいただきながら、下で紹介させていただいて、まとめさせていただければと思っていますがよろしいですかね。あまり時間がないものですから、以下の地域づくり、人づくりの方針の中、これについて細かな部分、あるいは1ページの位置付け、あるいは2ページの図について何か御意見ありましたら賜って直していきますので、もしこれだけとはいうことがあれば、先ほど山崎委員さんがおっしゃった「心豊か

な」という表現は、学校教育、生涯教育、文化芸術ということで三つの分野に分かれていますが、山崎委員さんとすれば、学校教育の分野のところに入れ込むということによろしいですか？

山崎教育委員

はい、お願いします。

寺島教育委員

学校教育の人づくりのところですけど、最初の第1章の市長のはじめにという策定の趣旨のところがありますよね。学校教育は自立して生きていく力を育むことが最も大切でありますというように、ここが最も大切と言っておりますので、そういうことからすると順番ですけど、「課題を解決する力、自立する力を育みます」というところを一番はじめに持ってきて欲しいと思います。

金子政策企画部長

人づくりの中の順番として、これを一番目に持ってきたいと思います。

城下教育委員

そうすると、私が希望していました「たくましく切り拓く」というのを、どこかに入れていただければ、学校教育のところへ。

金子政策企画部長

たくましくという表現、たくましく切り拓くまで入れますか。

城下教育委員

入れてくれるとすると、この今書いてくださった中の、チャレンジする精神というところを、たくましく切り拓くみたいな感じに変えていただくほうが、一番いいと思います。

小林教育長

私もチャレンジというカタカナでなくてもいいような気がしますけど。

金子政策企画部長

わかりました。御意見賜って直します。他の委員さんいかがでございますか。

山崎教育委員

生涯学習・スポーツのところ、ここで活動を応援しますっていう言葉が出てきますよね。これは何か、こう思っているかがあって応援しますという言葉に変わったのですか。

金子政策企画部長

生涯学習スポーツというのは、自ら生涯に渡って学習やスポーツをするっていう分野でございますので、行政としては学習やスポーツをやることを側面から支援するという意味があって応援ということで表現にさせていただいています。

山崎教育委員

わかりました。

金子政策企画部長

小林教育長、何かありますか。

小林教育長

それについては結構であります。

金子政策企画部長

母袋市長よろしいでしょうか。

母袋市長

はい、結構です。

金子政策企画部長

それでは今の時点で理念を定めていただきました。これに伴って下で説明加えます点、また教育委員さんに相談しながら作りまして、今言われた各分野の人づくりについても直させていただきます、会議をやる時間はございませんので、教育委員会を通じてお手元に届くように致しますので、何かあったら御意見を賜って、言って頂ければと思います。それで先ほど説明したように今後、学校の御意見、あるいは市民のパブリックコメントをとりますので、その段階でいろんな意見も出てまいりますから、これを踏まえて、3月の10日、最終的に確定してまいりますと思っています。よろしく申し上げます。

(2) 学校給食の運営方針について

西入教育次長 資料2 説明

学校給食の運営方針、上田市教育支援プランの検証・見直しについて説明させていただきます。この2件につきましては、第2回教育総合会議において、協議すべき政策課題ということで、教育委員会としては8項目ございますけれども、特に重要なこととして4項目を議題としたいということで挙げた上位の2つでございます。最初に学校給食の運営方針について御説明申し上げます。

この問題につきましては、平成23年度に学校給食の運営審議会から答申をいただきまして、食育の重要性に鑑みて今後のあるべき姿ということで様々な観点からの答申をいただいた経過がございます。これに対して庁内で様々な議論を重ねてまいりましたが、なかなか一致した方針、方向性が示されなかったということでございます。

こういう中で、私たち教育委員会といたしましても、今年度新しく教育委員会制度が立ち上がりまして、小林教育長のもと重点施策という形で教育委員さん含めて精力的に検討してまいりました。その経過につきましては、別紙でお示ししてございますけれども、今年度に入ってから検討経過でございます。

小林教育長が4月30日に着任されまして、その後5月27日に第1回の総合教育会議が開かれましたけれども、その前後にいたしまして、給食センターの視察を事務局レベルで行い

ましたし、7月には2回、教育委員会協議会、また、7月31日には臨時の協議会ということで、学校給食運営方針、特にはこの答申の内容についての御議論を集中して行っております。8月にはこれを受けまして、実際の上田市の共同調理場、第1、第2給食センターに赴きまして、実際の調理の実際を見たり、食事もするというので視察をまいりました。

9月には定例教育委員会でさらに議論すると同時に、月末28日には、長野市の第2学校給食センター、これは調理業務の委託をしているところですが、ここにも視察をまいりました。長野市はどうやっているかということの内容、また試食もさせていただいたということでございます。10月に入りまして、20日の日に松本市の東部学校給食センター、こちらは教育長と我々事務局で行きましたが、直営による大規模センターの運営状況、また積極的に行っております食育の推進について、それから一番急務でございますけれどもアレルギー対応についての状況を視察をまいりました。翌日、定例の教育委員会の中で、そのことについての説明・報告もいたしたところでございます。そういったものを総合いたしまして、10月30日には市政経営会議でも基本的な方針についてお示しをしてご協議いただいたところでございます。去る12月4日には、この基本的方針について総務文教委員会にもお示しをしたということでございます。

また、7日には上田市の単独調理方式をやっております真田中学、先進的な食育の推進活動に取り組んでおりますので、その状況についても見てまいりました。

そのようなことで、大変多くの日数をかけながら精力的に話し合いをいただいております。概要方針案ということでA3の資料2をまとめてございますが、右側に審議会からいただきました答申の概要がございます。上田市の望ましい実施方針を示したものでございます。性格というように書いてございますけれども上田市の学校給食についての理念及び望ましい実施方針を示したものであるということでございます。次世代を担う子どもたちを育む学校給食のあり方ということでございます。この理念につきましては、私どもも十分に尊重したいということの観点の中で、先程の視察、協議をしてきたところでございます。

ここまで時間がかかった理由、非常に多くの理由がございますけれども、一番クローズアップされておりました、右側の3番目、学校給食の運営のあり方、(1)の調理方式、これにつきましては食育を推進するという事の中で、自校方式が最も食育を推進するには相応しいということの観点から自校方式、単独調理方式が望ましいという方針をいただいたところでございます。

しかしながらということで、効率性や行政負担を考慮し、安全面や食育面に十分配慮した別の方法も検討することも考えられるということも併記されているところでございます。

また、運営形態につきましては、民間委託についての研究もございまして、民間委託することについても検討する余地はあるが、前提として学校給食の質を低下させない、食に関する指導が行えること、安全確保ができること、また、法令を順守することというようなことが前提になるんだよということの答申をいただいております。

また、クローズアップされた大きな問題といたしますと、子どもたちのアレルギーへの対応でございます。非常にアレルギーを持ったお子さんが増えている中で、現状において上田市の給食センターでは、この対応ができていない、代替食等の提供ができない状況がずっと続いております。こういったこと、施設面での対応が必要だということでございます。

そういったアレルギー対応、また安心・安全ということでは衛生面での観点、ドライシステム(水をジャブジャブ使わないシステム)に今なっておりませんが、そういった安全面・衛生面を考えると、これからドライシステムを運営していかなければいけないこと、それから今す

に老朽化している施設、そういったものを今後どうするんだということ、これは最近全庁的にクローズアップされてまいりました公共施設の白書、今後20年30年先、公共施設はどうあるべきかという観点から、全庁的な考えの中で、今あるものをそのまま維持することは難しいということの中で、そういったものも配慮いたしまして、左側の運営方針をまとめたということでございます。4点に分けてまとめました。

一番目には何を置いても食育、子どもたちの体を支える、つくる食というものを一番大事にしていきたい。これは家庭が最も重要な役割を果たすと思いますけれども、学校給食においても食に関する指導、学校がもっと中心になって行っていく必要があるということでございます。そういう中で、生きた教材として学校給食を使っていこうと、これは今までもやっておりますけれども、更に充実した形で学校と共々やっていきたいということ、それから栄養士、こういった人的な配慮もしながら学校との連携、食育授業の充実、保護者への啓発といったもの、こういった人の面でも充実させていこうということ、また日本食生活の実践ということで、米飯給食中心ということで今やっておりますけれども、さらに引き続きこういったものをしていきたい。それからできる限り手作りによる調理ということで、これは視察に行つてまいりまして、実際にそれぞれの給食を食べてみた感想でございますけれども、上田市の給食センターの給食は大変おいしいというのが皆さん共通した感想でございました。これは手作りによるものですとか、いろいろな職員の努力、工夫がございまして、その積み重ねだろうなあと思いますけれども、こういったものは今後も引き続きやっていきたいということであります。

右側の答申から矢印がいっぱい伸びておりますけれども、いろんな論点に関しては、こういった形で対応したいということの模式図でございます。

2番目の観点は、食物アレルギーの対応ということでございます。先ほども申しましたけれども、現在上田市では、丸子給食センターと自校方式でやっている給食調理においては、アレルギー対応ができておりますけれども、第1、第2の給食センターにおいては、物理的な環境がないということもございまして、対応する職員もないということでできておりません。

これを新たに整備する給食センターでは整備をしまいたいということであります。

3番目、学校給食施設の整備でございます。衛生管理の面からも老朽化した施設を変えていきたい、ここではアレルギーも一緒にやっていきたいということであります。

何よりも今後の公共施設のあり方を見通した施設統合が必要だということで、下の枠内にありますけれども、現在第1学校給食センター昭和63年、第2学校給食センターが昭和56年、川辺小学校については昭和45年、東塩田小学校は昭和37年という形で、大変古くなっております。今後これをどうするかということでございますが、給食センターにつきまして、耐用年数がほとんどきておりますけれども、これを一つ一つ改めてまた作りかえすということにつきましては、非常に労力もかかりますし、時間もかかる、またお金も相当かかるということでございます。また、この間にも老朽化している施設の補修は続けていかなければいけないことや、何よりもアレルギーで困っている子どもたちへの対応がその分遅れていってしまうということでもございます。

今後の財政的な面も含めてですね、人の手当の問題も含めて、第1、第2、それから川辺小学校の調理場については廃止をして、新たに統合センターを建設して、そこで賄っていきたいということでございます。

その中では、当然ドライシステム化をすること、アレルギー対応も整備するということが、これによりまして、すべての小中学校の生徒のアレルギー対応が実現するという形になります。

あと、統合することによりまして、経済的な面、効率性、行政負担も考慮した運営ができる

ということでございます。市内に 2 つあります自校方式の川辺小学校は統合センター、東塩田の小学校につきましては、現在ございます距離的にも近い丸子の給食センターに統合したいということでございます。

その丸子のセンターを含めて真田、武石地域の調理場につきましては、当面現施設がまだ使えるということでもございますので、現状維持という形で行っていききたいと、施設整備については、このような考え方を持っております。

4 番目の学校給食の運営方法でございます。これにつきましても民間委託という方向性についても、さきほどの長野市の視察にも行ってまいりました。十分に検討してまいりました。

そういう中での判断でございますが、やはり長年積み上げてきた給食員のノウハウ、これは相当のものだと。安心安全にできるおいしい学校給食というものは、やはりこの積み重ねが大事という判断で、行政改革の視点も踏まえた効率的な運営をするということの前提で、全施設直営でやっていきたいということでございます。

下に枠にありますけれども、直営をするということの中では、施設統合による施設面での合理化、また人間の集中配置ということでの合理化もできる、それから長野、松本市では配送業務については、かねてから民間委託にしておりました。上田は昔から直営で調理員が兼務で配送もしておりました。これは上田のメリットということで、今後も現体制で配送業務の直営を維持してまいりたいという考え方でございます。

こういった考え方、答申の内容とですね、最大限、できる限り、今の上田市の財政状況、今後の 30 年、40 年先の次なる建替え等も含めて考えた中で、これが教育委員会としての方針としてまとめたいということでございます。

この総合教育会議の中で改めて、この辺をご確認いただきまして、方針についてお認め頂ければ、今月の定例教育委員会で正式に決定したうえで、関係地区、関係の皆様のところにも伺わせていただきまして、方針についてご説明をし、理解を得てまいりたいと考えております。よろしくお願いいたします。

山崎教育委員

さきほど教育次長に説明いただいたとおり、私たちもいろいろ視察に行かせていただき、その場で給食も試食させていただきました。現場を見るという意味では有意義な内容でありました。そこで、私が感じたのはセンターにしる、自校給食にしる、そこで働いている方たちは、どの方たちも使命感を持っていますし、また情熱も持っていますし、あとは責任感も強く持っています。それぞれ真剣になって子どもたちに美味しい給食をということで仕事をされています。その職員さんたちの気概というのはどちらも遜色ないものだと感じました。どちらがいいというのはなかなか一辺倒では判断できませんが、すべていろいろな面から考えて今回の方針というのは、やっと方針が固まって、長い期間タイムラグがありましたけれども、それだけタイムラグがあった分、内容のある新しい方針になったなと思っています。

私がこの中で非常に思っていることは、やはり調理方法が変わる学校が何校かありますので、その学校及び今まで自校給食を食べてきた児童生徒たちには、丁寧に、こうやって変わっていくんだということの説明を是非お願いしたいと考えています。

私たちもなかなか給食を食べるというのは機会がなかったのですが、本当においしい給食を調理員の方たちが愛情を込めて作っていただいています。それを本当に実感できたので、これからも食育ということも含めて子どもたちに美味しい給食を提供いただければいいかなと思いました。

寺島教育委員

教育委員会の中で詰めてきたことですので、これでいいと思いますが、ただ、全体からすればこういうことだろうと思いますが、一番いいのは子どもたちにとって自校がいいはずなんです。ただし、それにはとてもじゃないけどお金と人手がかかりすぎてしまうということで、そういう中でやはりこういうことにもってきたということ。

それから私は学校給食についてレクチャーを受ける前は、単純に市長よく言われますけど、民間でできることは民間でということで、民間でいいんじゃないかと、私、最初は民間委託ということで一番合理化できるのかなと思っておりましてけれども、内容を聞いてみると施設は上田市で作って、食材は上田市で提供して、じゃ民間委託ってどの部分が民間委託なのかと中身を検討していくと、とても複雑で、やりたくても複雑になるし、この事業は残念ながら民間委託には、正直言ってなじまないと思いましたが、したがって直営でできるだけコストを安く運営する形で、こういう案におさまったということによりよろしくお願いいたします。

城下教育委員

私も最初は実は寺島委員さんと同じように民間で何が悪いのというところもありましたね。実際先ほども申し上げましたけど自営で会社なんかやっています。民間のほうが競争原理が働いていいものができるわよという、最初はちょっと案直にそういう考えがありました。

でも本当にいろいろ話を聞いていくと、複雑ですし手間もお金もかかりますし、これは子どもたちのためにならないことなんだということが判りまして、そんな思いを変えたところから第1学校給食センター、長野市、真田中といろいろなところを視察させていただきまして、先程、山崎委員もおっしゃっていましたが、現場の職員の方々、本当にプロ意識を持って、そしてそれを長く地道に継続してやってくださっているということで、職人技ですよ。よそう量なんかもパッ、パッ、パッとやっているのに、それが最後は過不足なくびしっとできるというところが、本当に素晴らしい職人技だと思って感心して見させていただいたんですけども、そういったところを見させていただいて、自校がいいのか、センターがいいのかって言えば、それは自校の方が作り手の顔も見える、すぐそばで作っているから温かいものがすぐいただける、確かに自校のほうがベストなんでしょうけれども、でもセンターでも限りなく自校に近い、しかもそこには、とても職員の方々の気持ちもこもっているという現場を見せていただいて、こういうように方針がでたところで、本当に良かったなというのが率直なところ。今のままただただ日にちを重ねていくことは、子どもたちのためになりませんし、特にこのアレルギー対応が実現されるということは、私ごとですけども、うち子どもも一人重症な食物アレルギーの子がおりましたので、家庭でどれだけ大変かというところを私、身に染みて考えながら子どもたちを育ててきましたので、本当にこれで安心するお母さん、ご家族の方多いんじゃないかな、いろいろトータルで考えたときに本当に子どもたち、ご家庭の方も幸せになる給食、食育というものがなされるんじゃないかなと思っております。

あと一つ特に付け加えたい点としましては、やはり私なんかも子どもたちが給食でお世話になっていても、実際に給食を食べたり、給食センターの様子を見に行くとか、そういったことをなかなか知らないで過ごしていたので、教育委員会で食育推進栄養士の配置とか、いろいろそういう子どもたちやご家庭にセンターはこんななんなんですよ、というところをもっと知っていただくような動きというところは活発にさせていただければ、よりいい食育がなされるんじゃないかと思っております。

小林教育長

答申を受けましてからかなり時間が経ってしまいました。これにつきましては、この案を作り上げるまで大分時間がかかってきてしまいましたことは大変申し訳ないと思っておりますけれども、将来の少子化というものを見据えた時に、これから長い将来に向かって、安心、安全でおいしい給食を持続していくためには、こういったことが必要である。そのような考え方からこんな案でまとめさせていただいたところでありますので、よろしくご意見いただきたいと思ます。

母袋市長

私はやはり市長という立場から、合併した中でのこの給食のあり方、その中でもどういう方向になるにせよ課題、それはやはりお金面という視点は、どうしても外せないというそういう思いで見つめてきました。ようやくこのような形になってきて、結論的には賛成であります。

センター、自校ともに併存をしながら、一方で時代の流れたるやはり施設の統合です。これをきちんとするという流れ。もう一つは予算面のことで、イニシャルの投資とランニングコスト、こういった視点からも、更に人員面での効率化、直営とはいえ効率化を図って将来に臨んでいくという、こういう姿勢が見えたものですから、それぞれ比較した中で現案でいいんじゃないかなと思ったことが一つと、そういう中でも新たにアレルギー対応とドライシステム化、こういったものも今の時代の流れの中で対応できるという目新しさも覗いているということにおいて賛同をするものでございます。

金子政策企画部長

いま、ご意見を賜ったんですけれども、今、御提示いたしました学校給食の運営方針というこの方針で今後、上田市として向かっていくということによろしいでしょうか。

委員了承

(3) 上田市教育支援プランの検証・見直しについて

西入教育次長 資料 3-1・3-2 説明

教育支援プランにつきましては、平成 21 年度に作成をいたしました。市長部局とともに作成をし、学校とともにこのプランに従って教育施策を講じてきたということでありますが、27 年度で総括をさせていただきまして、その総括の内容に基づいて今後の 5 年間、先程の教育大綱を含めまして、総合計画との整合もありますので、28 年度から 32 年度までの 5 年間のプラン、いわゆる実行計画という形で組み直しをしたいということの提案でございます。

まず、3-1 の従前のプランの検証内容ということでございます。基本目標「次代を担う人づくり」ということで、4 つの柱、重点目標を手掛けて構築をしました。その 4 つの重点目標の下に支援策ということで合計 28 項目ございまして、それぞれの施策を構築してきたところでございます。かいつまんで課題ですとか考え方を申し上げますが、最初の一番目、学ぶ意欲を育む授業ということでは、その支援策の一番、わかる授業、楽しい授業の推進、それから 2 番目の学力検査・調査を活用した実態把握と授業改善、また 4 番目では少人数学級、習熟度別授業、小中連携の推進といった内容が主な施策でございましたが、課題の中にいろいろ

る書いてございますが、今後この5年間の中では、実態として中学生の家庭学習時間数が全国値に比べて低い、また予習など授業につながる内容の実施率が低いということ、また2番目にありますが、学力テストの結果、中学生の学力向上が課題となっている、4つ目の小中連携事業の成果を市内に広めていく必要があるといったようなことが課題でありました。

これを今後の第2期への反映ということでは、最初のポツでございますが、児童生徒の学力向上を最重要課題と位置付けたいということで、これまでいくつかに分かれていた支援策を統合して、今度新たに3つくらいに集約をするということ、その中でも学力テストの結果を一つの測定指標として、それに基づきまして、具体的な支援内容を検証していこうということの方向であります。

2点目のポツでございますが、社会のグローバル化に対応する人材の育成ということで、これはまさしく、これから小学校でも英語の教科化が平成32年からはじまりますので、こういったことの国の方針にも沿う中で、新たに具体的な施策を展開する必要があるということのまとめでございます。

2番目のきめ細やかな個に応じた指導ということで、特徴的なのは8番目のいじめ・不登校などの問題に悩む児童・生徒への支援、また、特別な支援が必要な児童・生徒への支援ということでございます。特にこの不登校については、増加をしているという状況でございます。また、発達障害等の子どもさんに対するケア、いろいろな形で必要になってくるということがございまして、何よりもそういった支援体制の構築というのが求められる時代になっているということの課題があります。

今後の展開でございますが、最初のポツでございます。先ごろ決定いたしました上田市の総合戦略につながるものとして、未来に繋がる特色ある教育を推進していこうということで、一つには幼保小中高大連携の取組を推進していくということを打ち出しております。また、先程の特別な支援が必要な子どもたちへの対応といたしましては、いろいろな施策を整理・統合するというので、いじめ不登校など悩みを抱える児童生徒や障がい、外国籍などの個別の事象についても支援を展開していくことの内容でございます。あと様々な施策を統合していくことの内容であります。

3つ目の安心・安全な学校づくりということでございますが、これについては最初の14番目の耐震の関係でございます。優先順位を非常に高くして最優先で耐震化を行いまして28年度をもって100%耐震化が完了するということになりました。そのため、今後の展開としては、この項目を削除するというものです。また、営繕的なものにつきましては実施計画等に予算対応等もございまして削除したいということでもあります。

17番目、食育の推進と地産地消の学校教育の充実ということで、先程の学校給食のあり方についてもありますけれども、食育を推進していくという観点でアレルギー対応も含めて重点的に取組む必要があるということで、展開をしていきたいということでございます。

4番目地域に信頼され地域に開かれた学校づくりということで、何点かございますが、20番、21番に関係しますけれども、地域とともにある学校づくりへの支援ということで、地域の皆さんの手を借りて学校を支援していこうということの取組がますます重要になってくると。いわゆる県で推奨しております信州型コミュニティスクール、こういったものを上田市としても推進していこうと。それについては地域の皆さんのお力を借りるということやコーディネーターと呼ばれる人を育成、養成をしていく必要があるということの課題でございます。これについては、今後も引き続き重点的にやっていきたいということで、コミュニティスクール、いろいろな要件がございますけれども、各学校の特性に従って持続可能なものとなるよう支援体制も展開し

てまいりたいということでもあります。

それから 25 番にあります地域との連携によるキャリア教育の推進ということ、これにつきましては総合戦略にも位置づけておりますけれども新たな観点で、地域に育って地域で働くという観点を含めて、そういった観点でも推進していきたいということがあります。

最後でございますけれども 28 番の体力の関係でございます。これも全国の統計によりますと上田の子どもたちは平均値を下回っているということもございます。こういったものも小さい時からスポーツに親しむということも植え付ける必要があるということで、これも重点的に取り組みたいということの総括をいたしました。

只今の内容を総括したものを踏まえて、2 枚目の 3-2 の資料でございますが、今現在、新たな第 2 期のプランということで検討中でございます。今日お示ししますのは、まだ中間の報告という形になります。庁内の関係課との協議をしながら、各学校のご意見もお聞きしながら、共々こういったものについて共通の理解を持って目標も共有しながら、この 5 年間やっていこうと。要はそれぞれの目標に対して見える化をしていきたいという観点であります。

大きく変わりましたところは、基本目標につきましては、先程の大綱のフレーズを少し使って直したいとは思いますが、大きく重点目標ここでは 3 つに分けてございます。その下に基本施策ということで 6 つ項目を置きながら支援策は 15 に絞らせていただいております。当初 28 ありましたので約半分ということでございます。教育委員会内部でもあらかじめ協議も十分いただいておりますけれども、基本施策の一番として学力の向上というフレーズがございまして、これについては、重点目標の中の更に基本施策ということで位置づけておりますが、ご意見といたしましては、これが一番、最重要施策、目標になるのではないかとご意見をいただいているところではあります。学力向上につきましては単に一つのことでは学力向上するわけではございませんので、いろいろな分野が集合して結果的には学力という形で出てくるものと思います。この辺は検討課題ということでございますが、支援策といたしましては 1 番目、学力検査・調査を活用した実態把握と授業改善及び学校評価を通じ、わかる授業、楽しい授業を推進していこうということでございます。

これについて、今度改めて測定指標というものも作りました。一番目には全国学力・学習状況調査、これの平均正答率、ひとつの指標にはなり得るということでございます。今年平均正答率については数字を出しましたが、今後こういうものを見る化という形でお示しする中で、それに基づいてどんな改善が行われたのかということを検証してまいりたいということで、それによりまして、で「授業がわかる」とか「楽しい」という答えをする子どもたちの数も指標として考えてまいりたいということでもあります。2 番につきましては ICT を活用した効果的な授業の推進ということで、先生方の指導力を向上するというで、子どもたちに分かりやすい授業をするための一つのツールとして ICT、例えばデジタル教科書でありますとか、タブレット端末、こういったものを有効に活用する方策を考えていきたい。教員の指導力向上のためにそういうハード整備も必要かと思われまして、こういうことはその状況について測定指標にしたいということでもあります。時間の都合もあり、かいつまんで申し上げますが、3 番目のまずは家庭での学習習慣を身につけることも重点に考えたいということで、家庭学習といわれるものがございますけれども、単にこれも家庭と学校の間を往復するだけのものではないような形を考えたいと、家庭でしっかり目を通して、それをまた先生も評価できる、コメントできるようなものを作ってまいりたいということでもあります。

2 番目の関係機関が連携し社会に貢献する力の育成ということで、4 番目に英語教科化への対応、カッコとして英語教育の推進ということであります。これについては平成 32 年から

小学校においても英語の教科化が始まるということの準備をこれからしていかなければならない、早急にしていかなければならないということをごさいます、目標に書いてございませけれども、小学校の英語教科化に向けては担当の指導主事を配置することが必要であるということございませ。それによりませ、まず仮称でありますが英語教育の推進計画、これをまとめていく必要がある。それに基づいて5年間の計画を作っていきたいということあります。具体的にはこれも学校のご意見を聴きながらございませが、中学卒業時において英語検定3級を取得する児童・生徒の数というもの一つの指標として考えたところあります。下の5番目の幼保小中高大の連携推進ということで、これについては各学校が一貫して、一貫通貫で子どもたちを支え学ぶ環境を作るとございませ。成果指標といたしますと幼保小中高大の連携計画を作り実施をしていきたいということございませ。この実施ということにつきましては、一番右側の列に市長部局連携というように書いてございませが、具体的に英語の話につきましては政策企画部が検討しておりますものとの連携、それから一つとんでキャリア教育等でも関係しますし、体力づくり、これも子どもの幼稚園、保育園の時期から親しむ環境ことが必要だということ、下に下って14番、環境・防災・防犯の中でもいわゆる子どもエコ推進委員という形で小学校の段階から中学・高校等においても環境保全、省エネルギーに取り組む子どもたちを育てる、こういったことを幼保小中、高大連携までの中で実施をしまいたいというようなことあるということ掲げてあります。

あと8番目で食育の推進とありますけれど、さきほどの給食のあり方も含めて学校における食育を推進していこうと、それから9番目、体力づくりの推進ということで、運動やスポーツに親しむ子どもをまず増やしていきたいと、幼児期から含めてそういう環境を作っていきたいと、指標の中にもございませけれども体力測定の合計点数でありますとか、3番目にあります夢の教室、これはトップアスリートと触れ合う機会を増やそうということございませ。今後菅平地区へのキャンプ地の誘致に関係しますけれどもトップアスリートが来られた段階ではそういったものをどんどん活用して、子どもたちも触れ合っただけのような環境も整えてまいればと思っております。あと10番、11番、すべての子どもたちの学びを支援ということにつきましても、人数も多くなっていることもありませ、現状の体制、非常に厳しく、いろいろな所との連携、また、人的な配置といたしましては特に特別支援ということでは、非常に深刻な状況ございませ、担当の指導主事配置も必要かなと思っておりますところございませ。

こういったものもいろいろな連携機関との連携が必要であるということございませ。

あと下の5番の地域とともにある学校づくりということで、信州型コミュニティスクール等に代表されますけれども地域の皆さんのお力を借りて学校を支援する、子どもたちを支援する取組をやっていきたい。信州型コミュニティスクールの要件を満たす学校づくりでありますとか、土曜日を活用した教育活動実施計画、こういったものを策定していきたいということあります。それから13番、これも議会でも質問いただいていることありますが、地域を学び地域に対する愛着を深める教育の推進ということで、上田に育って上田で働きたいということ小さいうちから身につけてもらうような郷土に愛着が持てるような教育が必要だということございませ。こういったことにつきましても、それぞれの学校を通じて、特色ある学校づくりということの中でも十分対応してまいりたいということあります。

あと安全・安心の学校づくりということで、先程も申しましたけれども環境保全、省エネルギーということは、こどものうちからそういう意識を身につける、実践できるということをやりたいということ、仮称でありますけれども子どもエコ推進委員を増やすようなことやっていきたいと思っております。

最後に、15番で少子化による学校の小規模化への対応ということで入れてありますが、これは少しニュアンスが違った形でございます。目標としてふさわしいかということについて、ちょっと今内部で検討中でございます。非常に大きな課題とは捉えております。この支援プランの中で協議するのがふさわしいか、また、教育総合会議の中の政策課題としての協議項目にも挙がっておりますので、そちらで協議していくのがいいか、その辺はまだ未定でございますけれども一応、現在のところこのような形で新たな支援プランについては構築してまいりたいということで調整中でございます。また、3月までにはこれをまとめて学校との整合を取りながら最終決定に向けて作り上げてまいりたいと思っております。現在のところで御意見がいただければと思います。

金子政策企画部長

皆さんからご意見を賜って少し直すようなことがあれば、是非これだけは言っておきたいということがあればお出しいただければと思います。

寺島教育委員

学校教育の課題はたくさんあるんですが、どれもこれもというと焦点がぼけるので、今までの第一期と比べて第二期は絞れたことはいいと思いますが、そうは言っても学校教育の中で誰もが感じている一番大事なことは学力向上だと思うんです。そのために学校はあるんだと思います。その点、こういう体系表になってしまうと、重点がぼけてしまう感じなので、その辺をどのように強調したらいいかということが表の上でわかればいいのかなと。それからもう一つ先に第二次総合計画の案を拝見したんですが、その中で教育について未来に繋がる特色ある教育づくりというように謳われているんですが、特色ある教育とは何だということが見えない感じがするんです。そこをどうするのか。要は特色あるということは他の市町村に比べて上田の教育は、ここが違うぞという差別化するところが出てきてはじめて、人口減少のなかで、上田市で進めている政策の中での移住定住といいますか、上田市の子どもは上田で育てたいというときに、上田市の教育はここが違うぞというところをアピールしていかないと、総合計画と連動していかないので、そこをどう強調するか、この標語じゃなくてもいいんだけど、そこですよ。そこをもう少し詰めて欲しい。或いは英語は徹底的にやるんだとか、ICTはどうだとか。或いはここでいう幼保小中連携だとかいくつかある。そういう中でやっぱり上田子どもを育てたいと思ったことをどのようにするかということが新しいプランの中で課題かなと、総合計画を拝見して感じたところです。

北沢教育委員

さきほど説明があった中で見える化という話がありましたが、このように1枚A3の用紙でまとめていただいて、大変誰が見てもわかりやすい形になっていいかなと思います。教育における施策ですので、PDCAサイクルで回していけば必ず検証というのが大事になってくるわけですので、その中での資料3-1のうちで言えば、支援プランの見直し・立案の視点というところが、資料3-2の測定指標に結びついてくる、非常に系統だっているなと思います。

寺島委員さんの何が一番大事なんだというお話がありましたけれども、学校現場にいた立場からすると、前の議題でもお話ししましたように、子どもっていうか人というのはやはり知・徳・体がその子なりに調和がとれているということ、そういうことを考えると支援策が1から15までありますけれども、やはり1番と9番と10番、1番が知で9番が体で10番が徳、これが

指標になって表れると思います。数字になって、だから1番の学力についてNRTとかCRTとかありますけれども、全国規模で考えるとやはり全国学力学習状況調査のこの正答率はとても大事な数字になると思います。それから9番の体力づくりの推進も長野県の傾向で中学の女子の体力がないということも、これは上田市も同じだと思いますし、10番のいじめ・不登校、これも徳育のやはり仲間とともに生きていくという、個性を認めて生きていくという共生の概念からすると、これもとても大事な数字だというように1番、9番、10番は思います。こういう数字を大事にしていかなければと思いますけれども、ただ、教育というのは支援をしたからすぐに成果が次の年に出るとか3年先に出るとかという、そういうものばかりではありませんので、成果というものを短期で考えていくか、中期で考えていくか、ある程度のスパンをどのように考えていくのかというところを大事にしていてもらいたいと思います。その中でやはり成果が出ているから更に支援をしていくのか、成果が出ているからもう支援はしないのか、成果が出ないから更に支援をしていくのか、成果が出ないのであれば予算も人もつけてもしょうがないから切っていくのかという、いろいろな考え方が出てくるんですけども、是非そのところをどう考えていくかというところを事案に応じて考えていくことが大事だと思います。数字ですので、こういう数字を上げるためにやるということではなくて、例えば学力も授業改善やわかる授業をした結果、数字が上がったというように、そういうように考えていくべきだと思います。数字が上がらないから、数字を上げるための授業じゃないと、分かる授業を、楽しい授業をやったその結果、数字が上がったというふうに考えてほしいと私は思います。数字が第一に大事じゃなくて、数字は大事だというように考えていくべきだと思っています。それは体力においても不登校の比率、在籍率においても同じです。

城下教育委員

私も今、北沢委員の意見に賛成ですね。やはり知・徳・体ということのバランスのとれた子どもたちの育成というところがまず大前提かなという考えはあります。とりあえず今、新しい28年度からの案は、いままでと比べて本当にすっきり、28項目から15項目に焦点化していただいたというところと、数値化、見える化というところもしっかり組みたたっておりますので、28年度からのこのプランというものは、PDCAをうまく回していけば、とても実のある動きになるのではないかなと感じております。細かいところに注文をつけさせていただければ、北沢委員がおっしゃったように数値ばかり追わないでいただきたいという、前にも申し上げたことがあります。やはり定量するというところばかりでなく、定正のところもしっかり判断の基準に盛り込んでいただきたいし、これ横に市長部局連携という縦の行を作ってもらったので、横の連携というものをこれまで以上に強化していただきたい、やはり教育委員会だけでどうか、こうにかと考えていてもなかなか回っていかないものがあるますので、この横の連携というものをしっかりとって進めていただければということを感じます。

また、どこかに入れ込めるかどうか、教育委員に仰せつかったときから思っているんですけど、教育委員会というものをもう少し市民の皆さんに身近に感じてもらえるような何か、ひとつアクションを入れていただければよりいいのではないかという気持ちはいつも持っています。だからといってどこに入れたらいいのかわからないということもあるのですけれども。

また、これもここまで盛り込むのは難しいのかなとは思いますが、家庭でやることなのかもしれませんが、家庭における生活習慣の形成支援といいますが、学校訪問をさせていただいておりますと、結構高学年でもその鉛筆の持ち方はとか、箸の持ち方とか、姿勢も悪いとかいろいろ目についてくるんですね。そういうところを目の当たりにしております

と、そういうことも、まあ、大きく括ればどこかに落とし込んでくることかと思えますけれども、そんなところも感じるところであります。

山崎教育委員

学校訪問をさせていただきますと、各学校うちの学校はこういうことに取り組んでいますよ。という説明の書類というかプリントのところに、これは上田市の教育支援プランの何番というように挙げて説明してくれる学校が増えているように思います。ですので、学校の現場でもこの支援プランというものが実際に入り込んでいるということを感じてきました。

今回もこうやって整理をされてわかりやすくプランを作っていただきましたので、これが実際に学校で先生方が教育をするうえで実となる支援になるように進めていっていただきたいと思います。どの委員も思っていますが、この測定指標を出すためにやっているのではなくて、子どもたちがたくましく元気に学校生活を送るためにこの支援プランがあるんだということを学校現場と共有をして進めて行っていただきたいと思っています。

小林教育長

今、委員の皆さんに行っていたきましたので、私のほうから特別ないんですけれども、今回の特徴としましては、焦点化したこと、はっきりと見える化して、やっていこうということ、それからもう一つは学校現場にもう一回おろして意見を聴きながらやっていくということで、そういうものが学校と共有されないと実のあるものになっていかないと思いますので、そんなつもりでやらせていただきたいと思います。

母袋市長

そもそも論でいくと、有識者会議を立ち上げてから、その結果としてこのような支援プランができて今日を歩んでいるということで、まさに進化形であるなということを強く感じております。やはり見直しの機会というのはいろいろな時点があると思いますので、今回、国のこのような制度に則っての総合教育会議の場でまず、こんな形にチェンジできるということは喜ばしきことと思います。それから中身については、私が一回目に申し上げたこと、ほぼすべてと言っていいほど、盛り込んでくれているので、これもそういう意味では満足しております。

そういう中で幾つか重点化、もう少しわかるようにという意見にも賛成ですが、その中で特に上田市は、学力の問題は言うまでもないんですが、4番、5番あたり、私の関心事です。

とりわけ、学園都市づくりにおいては、この高大を連携させるということが大事で、子どもたちにとって、やはり年齢の少しでも近い人たちから教わるとか、そういう人たちに接して感化を受けるとことが本当に大事なことで、そういう意味からすればある資源を活用して連携ができれば越したことはない、これは上田市のまさに特徴であり、強みである、こんな思いを強く持っております。それから12番です。この12番、13番は地域とともにということですからまさに第二次総合計画で言っている地域力にあたるものと思っております、その中の測定指標のですね。土曜日の教育活動、これについても私は感心を持っております。これは学力という視点からも、地域で子どもを育てるという視点からも、人材はいろんな人がいるので、大切な視点であろうかなと、これをどう組み立てられるかが、大きなテーマであろうと。

こんな思いを持っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っています。見える化については、まさにこれまでも教育委員会で取り組んできたことがなかなか市民には伝わっていないという強い思いがあったことから、私も申し上げた言葉ですが、これもどうやっていくかは工夫次第

なものですから、見える化の具体的な見せ方というか、市民に知ってもらう、それはいろいろやはり工夫して若干パフォーマンスでいいから、教育に力を入れているという姿勢こそ市民に訴えるものである。このように思っています。この辺についてよろしくお願いします。

金子政策企画部長

(3)につきましては、今いただいた意見を踏まえて、(1)の大綱の基本理念、「サント上田の未来を紡ぐ人づくり」、この視点を踏まえて、再度、教育支援プランの見直しをしていきたいと思えます。

最後に事務連絡ですが、次回3月10日の木曜日、午後1時30分から、この5階の第3委員会室で、第4回目の総合教育会議を予定しておりますのでよろしくお願いいたします。